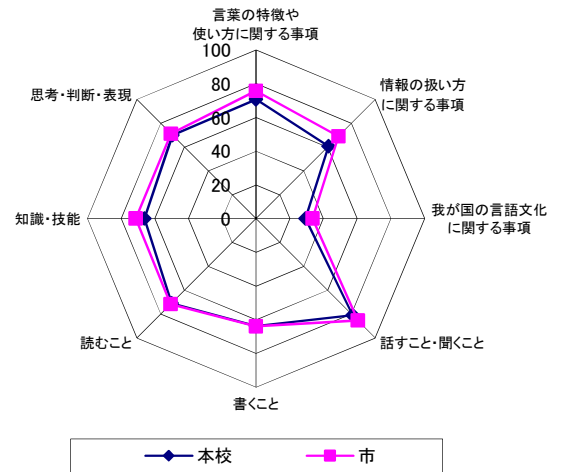


宇都宮市立陽南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	70.8	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	60.8	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	29.4	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	81.0	85.5	86.5
	書くこと	63.7	63.9	65.8
	読むこと	70.9	71.6	69.5
観点別	知識・技能	66.1	71.3	72.9
	思考・判断・表現	70.1	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

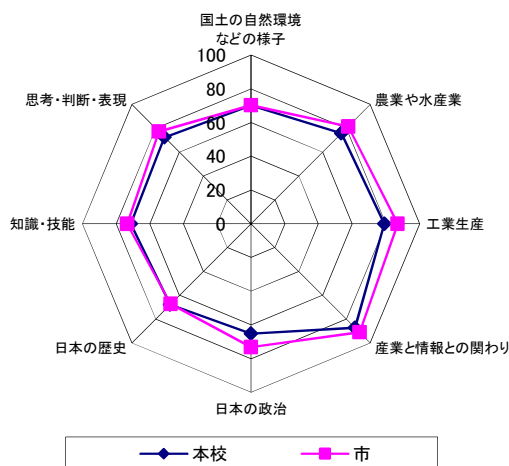
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は市の平均より低い。 ○●第6学年の漢字を読む設問において、市の平均よりやや高い正答率であったものもあったが、文と文との接続の関係についての正答率については、市の平均より低い。接続語の使い方の理解や、「一文目の終わりの五文字」などの答え方への理解について課題が見られる。	・順接や逆接など、文と文との前後関係から適切な接続語を選択する学習を行い、理解を深めていく。 ・授業の導入等で、既習漢字を繰り返し確認する活動を設け、定着を図っていく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は市の平均より低い。 ●原因と結果など情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する設問の正答率が市の平均より低い。文章の構成を正しく読み取り、情報の整理をすることについて課題が見られる。	・日々の授業や学級生活の中で、言葉と言葉のつながりを意識させる活動を行い、文章から情報を整理する力の定着を図る。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は市の平均より低い。 ●和語、漢語、外来語についての正答率について、市の平均より低い。複合語の学習の際に復習してきたが、語句の由来に関心をもつことについて課題が見られる。	・ICT機器を積極的に取り入れながら、児童が関心をもって言語についての学習を行えるよう、教材教具の工夫をしていく。 ・和語・漢語・外来語について日常的に触れ、複合語について関心・理解を深められるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均より低い。 ○質問の工夫について理解し、意図を読み取る設問において、市の平均より高い。 ●話の内容を捉える設問において、市の平均より低い。話の内容から必要な事項を見抜く力に課題が見られる。	・学級活動や普段の生活の中でも、必要な事項や重要な内容は、要点をまとめながらメモを取るなどの指導を行っていく。
書くこと	平均正答率は市の平均とほぼ同じである。 ○目的や意図に応じた書き方を考える設問において、市の平均より高い正答率であった。 ●文章の構成や展開を考える設問において、市の平均より低い。自分の意見とそれに伴う理由や考えを順序立てて書くことに課題が見られる。	・文章を書く際に、読む人に伝わりやすくするために、内容のまとめりごとに段落を設けられるような指導を行っていく。 ・自主学習などで、作文や日記を書く機会を設け、文章の構成を意識した学習ができるようにしていく。
読むこと	平均正答率は市の平均よりやや低い。 ○文章全体の構成を捉える設問において、市の平均より高い正答率であった。 ●描写に基づいて登場人物の様子を捉える設問において、市の平均より低い正答率であった。人物の動作から感情を読み取ることに課題が見られる。	・物語中の描写から、登場人物はどのような心情なのかを整理したり、理解したりできるように引き続き授業の中で指導をしていく。

宇都宮市立陽南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	70.2	70.3	66.4
	農業や水産業	75.8	81.6	75.3
	工業生産	79.1	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	87.3	91.0	81.3
	日本の政治	65.2	73.2	75.3
観点別	日本の歴史	67.9	67.4	68.5
	知識・技能	71.3	73.5	72.5
	思考・判断・表現	72.5	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

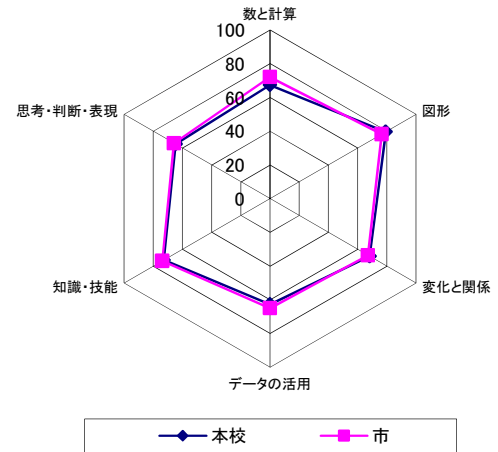
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は市の平均とほぼ同じである。 ○近年日本で起きた自然災害の発生場所の理解に関する設問において市の平均より高い正答率であった。 ●日本周辺の海洋についての理解に関する設問において、市の平均より低い正答率であった。 ●季節風の理解に関する設問において市の平均より低い正答率であった。地形や気候に関して理解が不十分であると考えられる。	・地形や国など、地理的な学習は3年生から段階的に学ぶ内容である。自分たちが暮らす地域や関わりのある国の学習に関心を持てるように授業を工夫し、発達段階に合わせて視点と関心を広げられるようにしていく。 ・日々の生活の中で天気と地理的事象を結び付けるようにし、気候について考えられるようにしていく。
農業や水産業	平均正答率は市の平均より低い。 ●米の品種改良について、資料を基に読み取り表現する設問において、市の平均より低い正答率であった。資料から正しい情報を読み取り、整理する力に課題が見られる。	・資料の読み取り方、情報の集め方等、問題解決学習の基礎となる力を指導していく。 ・社会的事象について自分の力で情報を集めたり、まとめたりする学習を行っていくことで、能動的に知識・理解を深めていけるようにする。
工業生産	平均正答率は市の平均より低い。 ●自動車の製造工程の理解に関する設問において、市の平均より低い正答率であった。 ●日本の貿易の変化に関する設問では、市の平均より低い正答率であった。	・日本の産業について関心・理解が広がる授業を展開していく必要がある。単なる工程の説明にならないよう注意し、工程の意味や重要性を考えさせながら、社会的事象への理解を深めていけるようにする。
産業と情報との関わり	平均正答率は市の平均より低い。 ●情報を生かした産業に関する設問において、市の平均より低い正答率であり、課題が見られた。	・情報化した社会に関する学習については、今後の社会生活においても生活に密接に関わることから、日頃より身近にあふれている様々なメディアに着目させたり、自然環境の現状に関心をもたせたりする機会を設定し、指導を行っていく。
日本の政治	平均正答率は市の平均より低い。 ○法律ができるまでの流れについての設問において、市の平均より高い正答率であった。 ●日本国憲法に関して、基本的人権の尊重の理解を問う設問では、市の平均より低い正答率であった。合わせて日本国憲法そのものの理解も低い傾向にある。	・政治についての理解に関しては、歴史の学習とも関連させ、戦前から戦後にかけての歴史的背景にも触れながら学習を行い、日本国憲法の成立までの流れを確認していく。 ・18歳からの政治参加を見据えて学習を進め、自分にも関わりのあることとして主体的に学べるようにする。
日本の歴史	平均正答率は市の平均よりやや高い。 ○縄文時代～平安時代に関する設問では、平安時代に使われた文字について、市の平均よりも高い正答率であった。 ●安土桃山時代、江戸時代に関する設問では、どの設問も市の平均正答率を下回った。	・資料から読み取ったことや友達と話し合ったことを基に、学んだ人物の働きや人々の生活の様子を中心に自分の言葉でまとめる活動を意図的に設定し、知識の定着を図る。

宇都宮市立陽南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	67.4	72.1	74.6
	図形	79.3	76.5	76.1
	変化と関係	68.2	67.1	59.7
	データの活用	62.7	65.0	64.5
観点別	知識・技能	72.7	73.8	74.7
	思考・判断・表現	64.7	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

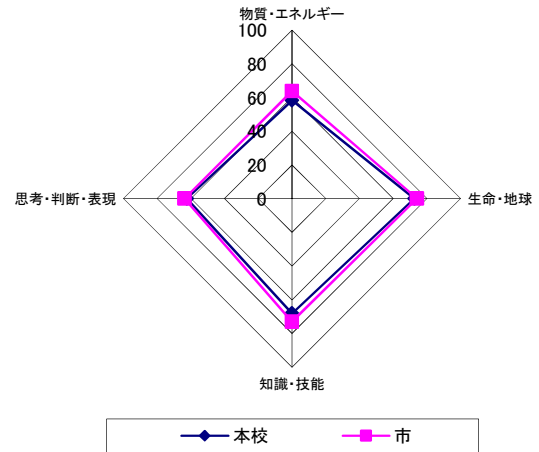
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は市の平均より低い。</p> <p>○小数の乗法の文章問題を表す図の構造を捉える設問において、市の平均より高い正答率であった。</p> <p>●文字の式に関する問題では、どの設問も市の平均正答率を大きく下回った。文字を使い、立式することや計算処理することに課題が見られた。</p>	<p>・未知の数を文字で表す計算処理について繰り返し解く機会を設け、計算処理能力を高めていく。</p> <p>・これまで得た知識から工夫して答えを導き出す算数的活動を取り入れ、求め方を式や言葉、図や数直線を用いて表現する力を伸ばしていく。</p>
図形	<p>平均正答率は市の平均より高い。</p> <p>○面積や体積を求める問題では、どの設問においても市の平均より高い正答率であった。</p> <p>○対称な図形に理解に関する問題では、どの設問においても市の平均より高い正答率であった。</p> <p>●図形から内角・外角を求める設問では、市の平均より低い正答率であった。</p>	<p>・図形の性質や定義についての理解を深め、朝の学習の時間などに角度を求める問題に繰り返し取り組んでいく。</p> <p>・習熟度別学習で、児童一人一人の実態に応じた指導支援を充実させていく。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は市の平均よりやや高い。</p> <p>○単位量あたりの大きさ・速さを求める設問において市の平均より高い正答率であった。</p> <p>●単位量あたりの大きさ・速さを求める式を立て、記述で答える設問においては、市の平均正答率を下回った。</p>	<p>・自分の考えを的確に説明することができるよう、言葉や式、図などを使って説明する活動を多く設定する。</p> <p>・朝の学習の時間や家庭学習などで、考えを書く問題に繰り返し取り組みませ、定着を図る。</p>
データの活用	<p>平均正答率は市の平均より低い。</p> <p>○ヒストグラムの特徴をもとに、データの妥当性について説明する設問において、市の平均正答率を上回った。</p> <p>●度数分布表を完成させる設問において、市の平均正答率を下回った。</p>	<p>・割合について、表やグラフなどあらゆるデータから求める活動を多く設け、計算処理の技能を高めていく。</p> <p>・日々の授業の中で、図やグラフを使って自分の考えをまとめる活動を設定することで、データの見方や読み取り方の理解を深められるようにしていく。</p>

宇都宮市立陽南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	58.3	63.8	61.6
	生命・地球	72.7	74.1	73.3
観点別	知識・技能	68.1	73.0	71.3
	思考・判断・表現	62.4	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は市の平均より低い。</p> <p>○「物の燃え方」の問題では、酸素の補集法に関する設問で、市の平均より高い正答率であった。</p> <p>●「水よう液の性質」の問題では、いずれの設問においても市の平均正答率を下回った。特に、実験の構想を練り、説明する設問では、市の平均正答率を大きく下回った。実験への理解・関心、それらを説明することに課題が見られる。</p>	<p>・実験や観察だけでなく、デジタル教科書や映像などのICTも利用して基礎基本の更なる定着を図っていく。</p> <p>・結果・考察について単なる説明にならないように授業を進め、考えたことを説明させたり、まとめさせたりしながら、内容の定着度を高めていく。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は市の平均よりやや低い。</p> <p>○「植物のつくりとはたらき」に関する問題では、どの設問においても、市の平均正答率を上回った。</p> <p>●「生物とかんきょう」の問題では、どの設問も市の平均正答率を下回り、食物連鎖の理解に課題が見られた。</p>	<p>・食物連鎖に関する理解の定着に課題が見られるので、1人1台端末のドリル等を活用して朝の学習の時間に復習する時間を確保し、理解の定着を図る。</p>

宇都宮市立陽南小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童の自己表現力を高める 言語活動の工夫	・各教科で小グループでの話し合いの活動を取り入れ、自分の考えと友達の考えとの違いや新たな考えに気付かせるようにする。	・「話し合いに進んで参加している」の肯定割合が、市の肯定割合を上回った学年が多かった。「考えを理由や根拠を挙げながら話す」の肯定割合についても、市の肯定割合を上回る学年が多かった。
基本的な学習習慣の確立	・「陽南小生活・友達アンケート」の振り返りを行い、基本的な学習習慣を身に付け、落ち着いて学習に取り組めるようにする。	・「授業の始まりには席に着く」「友達の話を聞く」「忘れ物をしない」などの基本的な学習習慣についての設問において、学年により差があるが、市の肯定割合を上回る項目が多かった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

国・県・市の学力調査の分析結果から、少人数グループでの言語活動を取り入れてきたことにより、児童が進んで話し合いに参加し、友達との意見交換を通して自分の考えを深めたり広げたりする姿が多く見られることがうかがえる。思考を交流する場の設定は、考えを整理する力の育成につながっていると考えられる。一方で、「書く活動」においては、自分の考えを述べることはできても、根拠を具体的に示しながら論理的に表現することに課題が見られる。今後は、話し合いと書く活動を関連付け、根拠の示し方や文章構成を意識させる指導を継続し、表現力の向上を図っていきたい。